

帯広市長 米沢氏3選



勝利を祝って万歳三唱する米沢氏(中央)と弥生夫人(右)ら(15日午後10時ごろ、新井拓海撮影)

帯広市長選 開票結果(確定)

当 米沢則寿 33,756票
(62)無所属・現
小森唯永 27,640票
(68)無所属・新

新人・小森氏に6116票差

任期満了に伴う帯広市長選は15日に投票が行われ、即日開票の結果、3万3756票を獲得した現職米沢則寿氏(62)＝無所属＝が超短期決戦を制し、3選を果たした。前市議会議長で新人の小森唯永氏(68)＝同＝は6116票差で届かなかった。投票率は44・84％で戦後の市長選で最も低かった。直近で投票があった前回(2010年)を12・71％下回った。

米沢氏は、初陣を飾った10年に引き続き、当時の民主主義の流れをくむ立憲民主党と支持母体の連合を基盤に、今回は2期8年の実績を評価した自民党の応援も受けた。選対役員には、経済界や農業界の重鎮が名を連ね、盤石の布陣を築いた。

選挙戦では、1期目から掲げる産業政策「フードバレーとかち」の旗の下、十勝を一つにまとめる地域活性化に取り組んできた実績を強調。3期目ではこれをさらに高める高みに押し上げたといふ訴え続け、勝利をものにした。

求められる「市民目線」

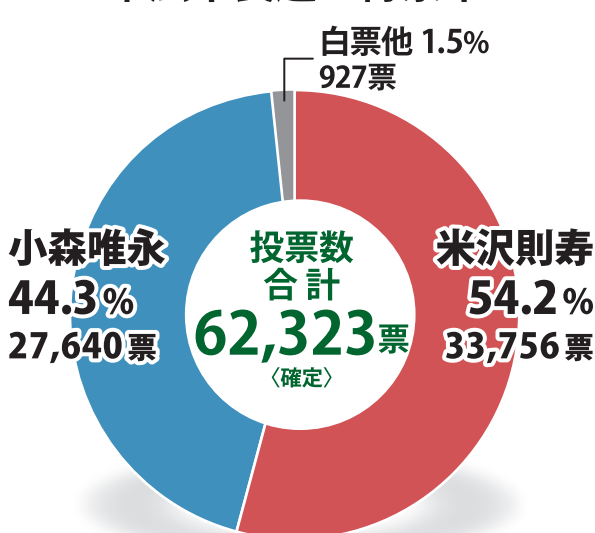
米沢則寿氏が「市民目線」を求められる。

米沢氏が1期目から掲げる「フードバレーとかち」は、十勝・帯広の資源をさまざまなプレーヤーが自立の磨き上げる環境づくりを目指す政策。この旗の下に十勝を一つにまとめたことは、管内町村はもとより、市民目線での市政運営

が求められる。米沢氏が1期目から掲げる「フードバレーとかち」は、十勝・帯広の資源をさまざまなプレーヤーが自立の磨き上げる環境づくりを目指す政策。この旗の下に十勝を一つにまとめたことは、管内町村はもとより、市民目線での市政運営

旧イトーヨーカドービル周辺再開発事業の見直しなど、2期8年の実績となった。一方で、政党支持がほぼなく、しかも週間という超短期決戦で小森氏に「善戦」を許した要因は、市民への情報提供不足が大きい。また「応援」とした自民

◆ 帯広市長選の得票率



投票率 戦後最低44・84%

帯広市選挙管理委員会によると、市長選の投票率は1971年の47・99％を下回り、戦後の最低となった。直近で投票があった前回(2010年)の57・55％に比べ12・71％低下した。投票日当日の有権者数は13万9004人(前回比3770人増)。

投票所別に見ると、市街地は軒並み30％台と低迷。農村部は比較的高かったものの、1カ所も60％台に届かなかった。期日前投票は投票所の増設が功を奏し、有権者の1割に相当する1万4177人(5735人増)が利用したが、全体の下落を押しとどめるには至らなかった。

午後9時25分すぎ、テレビで当選結果が流れると、米沢さんの合同選対事務所(市内西19南1)に詰め掛けた100人以上の支持者らは喜びを爆発させた。2分後、米沢さんが弥生夫人(59)と事務所入り。管内18町村長や議長、道議も駆け付け「よくやった」

「市民の幸せ中心に」米沢氏支持者と喜び

「おめでとうと割れんばかりの歓声や拍手が鳴り響く中、握手を交わした。引き続き、山田幸雄幹事長の司会でセレモニーが行われ、「祝V3」の垂れ幕を披露。岩野洋一本部長が「皆さまの熱く、力を強い支援で米沢市長が3選を果たすことができた。責任ある公約を胸に、市民一人ひとりに訴え、皆さんのおかげで勝たせてもらえた。ありがとう」と感謝の言葉を述べ、全員で万歳三唱。米沢さんの連合後援会の事務局員から花束が贈られた。

米沢さんは「陰に日なたに私を応援してくれた、すべての支援者に感謝を申し上げたい」と喜びの言葉をかみしめる。そして「身を引き締まる思いも感じている。これまでも変わらず、市民の幸せを仕事の本真に置き、ふれずに『夢かなうまちおひろ』の実現に向けて全力を傾け、一心不乱にまい進したい」と3辞を述べた。

小森氏 善戦「満足」



集まった支持者一人ひとりにお礼を述べ握手を交わす小森氏 (15日午後10時ごろ、金野和彦撮影)

示した批判「価値ある」

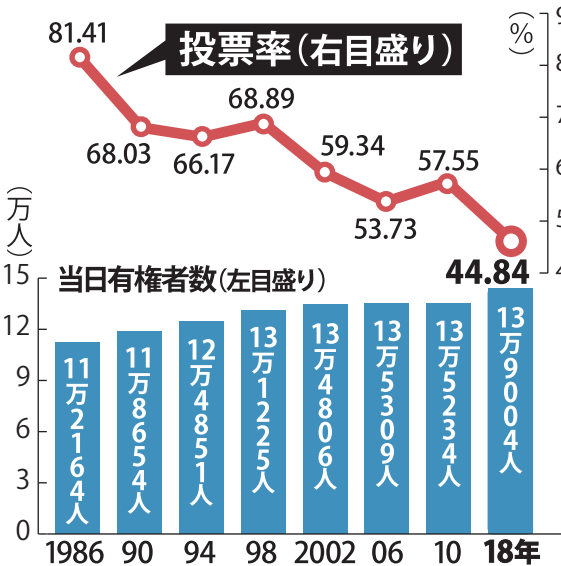
小森唯永さんの選対事務所(市内西12南4)では、午後9時25分すぎ、相手候補の「当選確実」の報が流れると、事務所内は「あつー」という声とともにため息が漏れた。その後、静寂がしばらく続き、陣営幹部らは険しい表情でテレビの画面を見詰めた。

小森さんが同39分ごろ、陣営に姿を見せると、大きな拍手で迎えられた。冒頭、「組織や政党の支持もない中、2週間ちよつとの超短期決戦で戦えたことに心からお礼を申し上げます」と述べた。

争点に掲げていた旧イトーヨーカドー周辺の再開発事業については「この事実を多くの市民が理解し、米沢市長への批判がこれだけ

過去の帯広市長選 得票結果	
※敬称略、()内は当時の年齢	
2010年	
米沢則寿(54) 37,516票 48.2%	上野敏郎(63) 37,378票 48.0%
猪股寛(64) 1,781票 2.3%	
2006年	
砂川敏文(58) 33,317票 45.8%	目黒精一(58) 32,316票 44.5%
杉野智美(48) 6,503票 8.9%	
2002年	
砂川敏文(54) 41,210票 51.5%	大塚徹(50) 24,416票 30.5%
川原勲三(46) 1,591票 2.0%	
畑中庸助(50) 6,035票 7.5%	
石井啓裕(61) 5,941票 7.4%	
1998年	
砂川敏文(50) 45,196票 50.4%	高橋幹夫(57) 39,318票 43.8%
野坂勲(47) 5,237票 5.8%	
1994年	
高橋幹夫(53) 43,607票 53.1%	古沢慎二(52) 32,996票 40.2%
跡田裕行(28) 5,536票 6.7%	

◆ 市長選の有権者数と投票率



「小森さんの訴えを理解して投票してくれた人を誇りに思う」と語ると、支援者からは「さうだ」「これで終わりじゃないぞ」と善戦をたたえる声が上がった。自民党道11区支部の中川郁子支部長も姿を見せ「選挙には負けがた勝負には勝った。本当に格好良かった」と話した。小森さんは深々と頭を下げながら、支援者一人ひとりに握手を求めて回った。



同10時50分、落選が伝えられると事務所に落胆が広がった。大平さんは支援者らに向け「全力で支えていただきありがとうございます」と感謝し、佐藤本部長は「共産党のものが足りなかった」と述べた。同11時には石川香織衆院議員と夫の知裕氏が事務所を訪れ、労をねぎらった。

支えに感謝

大平さん

大和田さん

大和田三朗さんは午後7時半ごろに選対事務所(市内西11南1)に到着。午後9時すぎには高橋哲史選対本部長や自民党の中川郁子支部長が集まった約50人の支援者とともに、OCTVの中継で開票の行方を見守

た。午後10時50分ごろ、当選が伝えられると「よし」「やった」と大きな拍手がわき起こった。

開票率が50%を超えても候補補選がつかない展開だっただけに、大和田さんも安心した様子で支援者

大和田さん

「1年を全力で」

深々とおしぎ。父・宏さん(89)とがつつりと握手を交わした。興奮冷めやらぬ様子で市民の健康を考え、出馬した。1年の短い任期を全力でやっていたい」と決意を述べた。

その後、喜恵夫人(52)も安心した様子で支援者

木幡さん

「声を届けたい」

木幡裕之さんの選対事務所(市内西2南8)には、午後10時すぎから小谷本部長や支援者同士が、あちこちで握手を交わしていた。小谷本部長が「皆さんのおかげで当選することができた」と感謝の意を述べた後、必勝言葉を述べた。

木幡裕之さんの選対事務所(市内西2南8)には、午後10時すぎから小谷本部長や支援者同士が、あちこちで握手を交わしていた。小谷本部長が「皆さんのおかげで当選することができた」と感謝の意を述べた後、必勝言葉を述べた。

帯広市議補欠選 開票結果(確定)	
大和田三朗(53)無所属・新	20,644票
木幡裕之(55)無所属・新	19,712票
大平亮介(29)共産・新	18,329票

市議補選 大和田氏、木幡氏制す

1383票差、大平氏届かず

帯広市議会議員補欠選挙(欠員2)は、大和田三朗氏(53)と木幡裕之氏(55)の対決となった。大和田氏は、医療・介護・福祉の充実を訴えた。木幡氏は、飲食店共同経営、無所属は1万9712票で、それぞれ初当選を果たした。大平亮介氏(29)共産・新は、18,329票で、12票で、それぞれ初当選を果たした。大平亮介氏(29)共産・新は、18,329票で、12票で、それぞれ初当選を果たした。

木幡氏は、中心市街地の活性化を掲げて出馬。出身支部の中川郁子支部長の後援会役員も務めていることから、中川氏や清水拓也帯広支部長(道議)らの応援も受け、自民党の支持層を多く取り込んだ。

木幡氏は、中心市街地の活性化を掲げて出馬。出身支部の中川郁子支部長の後援会役員も務めていることから、中川氏や清水拓也帯広支部長(道議)らの応援も受け、自民党の支持層を多く取り込んだ。



当選の喜びをかみしめる木幡裕之さん。右は美樹夫人 (15日午後11時10分)